



浅田晶久 紹介



- ・伝統の引っ掛け棧瓦で通産大臣賞を受賞した父・良治氏を継いで京瓦窯元の三代目となる。
- ・大阪工業大学で建築を学んだあと、23歳で家業を継ぎ瓦造りを本格的に始めた。適度に自由な創作が可能な鬼瓦造りを専門とする。
- ・現在、従来機能美に近かった瓦の伝統技術を独創的な物造りに活用している。
- ・伝統の熟練技を守る職人であると同時に、また瓦に新しい生命を吹き込む、「アーティスト」なのである。

浅田製瓦工場の拘り

日本建築に欠かせない瓦も機械化が進み大量生産が主となり、熟練の技術を要する手作りの瓦は全国的にも姿を消していきました。

現在では「京瓦」の伝統技術を受け継ぐ職人も数えるほどしか残っておらず、残念なことに現役で作品作りを行っている京瓦鬼師は「浅田晶久」只1人となっています。

時代に逆行するかのように手作りに拘りつづける浅田製瓦工場。浅田製瓦工場の瓦や鬼瓦は、手作りでしか対応できない歴史的建造物の修復などに使用され南禅寺や東寺、今熊野神社など有名社寺の屋根を現在も飾っています。

今もなお昔ながらの方法で瓦を作り続けている浅田製瓦工場は、伝統技術を受け継ぐ貴重な存在となりつつあり、全国の瓦産地から多くの若い技術者や職人が見学や勉強に訪れています。